



「不育症を引き起こす 主な危険因子」

染色体異常

子宮形態異常

内分泌異常

体内のホルモン分泌の異常が流産に影響

凝固異常

血液を固める働きの変異により、胎盤内に血栓ができ、流産、死産を招く

抗リン脂質抗体異常

自己免疫異常のひとつ。自分の生体因子を異常に認識し、血栓ができやすくなる

拒絶免疫異常

胎児の夫由来部分に過剰に反応し、拒絶してしまう

ストレス

「不育症治療」の1回の成功率は80%

ま ず知っていただきたいことは、「不育症治療」は1回の妊娠につき、100%の成功率は期待できないということです。不育症の患者さんの1回の妊娠において、15〜20%の頻度で、受精卵の偶然的な染色体異常が発生しており、その異常受精卵は運命的に流産となるからです。

「不育症」の危険因子にはさまざまなものがありますが、危険因子が見つかっていても、決して出産を諦める必要はありません。現在、理想的な「不育症治療」を行った場合、1回の妊娠での出産成功率は平均で80%とされています。

「不育症治療」は、ぜひご夫婦で

不 育症」の患者さんの多くは、「不妊症と違って、妊娠できるのだから大丈夫」「今度、また頑張ればいい」という周囲の励ましの言葉に傷ついたり、「流産をしたのは自分の生活習慣や行いのせい」と自分を責めてしまいがちです。また多くの患者さんが「不育症」のことを誰にも相談できずにいるといいます。

当クリニックでは、ご主人にも「不育症」のことを知ってもらうため、ご夫婦での診察をお勧めしています。そこで気がついたことは、ご主人も「不育症」の悩みを誰にも言えずに悩んでいるということでした。女性にとって、流産や死産の経験はとてつらいものです。しかし、同じようにご主人もお子さんを亡くした悲しみを誰にも言えずに抱えているのです。

よく私は患者さんに「ご主人に優しくしてあげて」と言います。ご自分がつらい時にこそ、ご主人にも目を向ければ、ご主人の優しさやつらさもよく伝わってくると思うのです。私は「不育症治療」で大切なことは、ご夫婦が一緒にご自分たちの状況を受け入れ、ふたりにとって納得のいく治療をすることだと考えています。力をあわせて治療に取り組んだ先に、ひと組でも多く、赤ちゃんを迎えられるご夫婦が増えてくれることを願っています。